

## 静岡県のテンナンショウ属

文・写真 杉野孝雄

表紙のスルガテンナンショウ最初の記録は静岡市亀爪山で、杉本順一氏が1920年（大正9年）に採取し、産地からリュウソウマムシグサと命名した。正式な記載は東京大学の中井猛之進教授が、1930年に新種 *Arisaema sugimotoi* Nakai の学名で、植物学雑誌に瀬戸ノ谷村の標本をタイプとして発表している。従来ムロウテンナンショウの亜種としていたが、現在はDNA解析で別種とされている。

テンナンショウ属は各種類の区別が難しく、さらに雑種ができやすく雑種も種子が熟し繁殖するので、多形で何度も分類が変わっている。最近の研究では静岡県に27種類が分布していることが分かっている。その中8種を表紙裏表紙も含めて紹介する。（参考文献：遠州の自然43号（2020）：杉野孝雄「静岡県産テンナンショウ属の再検討」）



カントウマムシグサ



ウメガシマテンナンショウ



ヤマザトマムシグサ



ミヤママムシグサ



ヤマナシテンナンショウ



ヤマグチテンナンショウ